

より効果的な英語語彙指導の方向性を求めて －高等学校英語検定教科書の談話分析を通して－

稻毛 逸郎*・遠藤 真紀**

(平成29年10月31日受理)

Towards a New Perspective to English Vocabulary Teaching
— Based on the Discourse Analysis of English Textbooks —

Itsuro INAGE*, Maki ENDOH**

(Received October 31, 2017)

1. はじめに

平成21年3月に公示された現行学習指導要領外国語編では、中学校で1,200語、高等学校ではさらに1,800語の語彙を学習することになっているが、新学習指導要領策定に向けた外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（2013年12月）では¹、

「指導する語彙数については、これまでの実績や諸外国における外国語教育の状況などを参考に、実際のコミュニケーションにおいて必要な語彙を中心に、小学校で600～700語程度、中学校で1,600～1,800語程度、高等学校で1,800～2,500語程度（高等学校で必履修科目及び選択科目を全て履修した場合、小・中・高等学校を通じて4,000～5,000語程度）を指導すること。」

と記述されている。新学習指導要領での語彙の量的増加が求められているのは明らかである。

また上記の取り纏めでは、英語によるコミュニケーション能力の涵養という観点から、学習者にとって身近なコミュニケーションの場面を設定した上で学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させるなど、指導の改善を図るという指針が明確に示されている。

例えば中学校での指導においては、「小学校で学んだ語彙や表現などについて、中学校的言語活動で、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高めることが必要である。」とし、また、高等学校の指導においても、「中学校で学習した語彙・表現・文法事項等は高等学校の学習において、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れるこ

* 長崎大学教授教育学部・国際文化講座

** 長崎大学教育学研究科教育実践専攻1年プログラム在籍

とができるよう、様々な言語活動を工夫し、外国語の運用能力を高めることが必要である。」としている。

このように考えてくると、仮に綿密な年間授業計画が立案されていたとしても、語彙指導に充てる時間には限りがあり、一定の時間の中で、可能な限り英語語彙を効率的に導入し定着させるためには、今後も更なる指導上の工夫が必要となってくるであろう。

伝統的には、英語の語彙知識には受容語彙 (receptive vocabulary)：単語を見て意味が分かる段階、と発表語彙 (productive vocabulary)：ある単語を自然な発話・文の中で活用することができる段階があると考えられており²、ある単語を受容語彙として定着させ、発表語彙として使えるようになるまでには、いくつかの語彙知識の諸側面を学習する段階を経ていくと想定されている³。

そこで本稿では、英語の受容語彙としての小・中・高の習得語彙の最大値5,000語程度と想定した場合、特に受信用語彙の獲得という観点から、今後さらに工夫すべき語彙指導の方向性とはいかなるものかについて検討していくこととする。

2. 語彙の結束性に基づいた指導について

英語の語彙的つながりについての古典的概念に、Halliday and Hasan (1976:278) が提示する語彙的結束性 (lexical cohesion) があり、このような性質を具現化する語彙を選択することによって、言語テクストに結束上の効果をもたらすと考えられている。文法的結束性 (grammatical cohesion) を表す次の4つの要素、具体的には、照応関係 (reference)，省略関係 (ellipsis)，代用表現 (substitution)，接続表現 (conjunction)，と共に提案されているものである。

この語彙的結束性は、(1) reiteration と (2) collocation の2つの範疇に分けられる⁴。さらに repetition は repetition, synonym (near synonym), superordinate⁵、そして general word から構成されている。具体例を示せば、次のようになる。

Repetition (同じ語の反復) :

What we lack in a newspaper is what we should get. In a word, a “popular” newspaper may be the winning ticket.

Synonym (類義語) :

You could try reversing the car up the slope. The incline isn't all that steep.

Superordinate (上位語) :

Pneumonia has arrived with the cold and wet conditions. The illness is striking everyone from infants to the elderly.

General Word (一般語) :

A: Did you try the steamed buns? B: Yes, I didn't like the things much.

次に、lexical collocation の具体例について考えてみよう。

Plants characteristically synthesize complex organic substance from simple inorganic raw materials. In green plants, the energy of this process is sunlight. The plants can use this energy because they possess the green pigment chlorophyll. Photo synthesis or “light synthesis,” is a “self-feeding,” or autotrophic process.

Animals, on the other hand, must obtain complex organic substances by eating plants and other animals. The reason for this is that they lack chlorophyll. Among these “other feeders” or phagotrophs, are “liquid feeders” or osmotrophs. Whereas phagotrophic organisms take in solid and often living food, osmotrophic ones absorb or suck up liquid food. This is usually from dead or rotting organisms.

(D. Nunan (1999: 123-124))

上記の文脈では、生物学の科学分野に関連する語彙の連鎖を構築しているという意味で、次の語彙項目が lexical collocation を成していると考えられる⁶。

Plants...synthesize...organic...inorganic...greenplants...energy...sunlight...plants...
energy...green...pigment...chlorophyll...photosynthesis...light...synthesis...self-feeding...
autotrophic

ではここで、高等学校検定教科書 *Unicorn English Communication II* (pp.169-178) を言語材料にして、上記の語彙的結束性を構成する上で重要な語彙をどのように分析・整理できるかについて検討していく。以下に、それぞれの項目についての分析例を示すことにする。

<repetition>

I have been studying chimpanzees both in Japan and abroad. I have not only worked with a female chimpanzee named Ai here in Japan, but visited Africa each year for the past 25 years to study wild chimpanzees in their natural habitat.

At the beginning of the 21st century, scientists succeeded in reading the whole human genome, and after that, the chimpanzee genome was also decoded. The result was amazing: 98.8% of the genome was exactly the same in humans and chimpanzees.

<superordinate>

Humans are mammals.

Humans are members of the animal kingdom. Humans are mammals. Among mammals, humans belong to the order Primates, and to the family Hominidae. The hominid family consists of four genera: humans, chimpanzees, gorillas, and orangutans.

<生物学の分類体系の上位から、 kingdom (界), order (目), family (科), genus (属) の関係が成立>

I have compared the minds of humans with those of great apes, especially chimpanzees.

The chimpanzees there use a pair of stones as hammer and anvil to crack open oil palm nuts ... from their previous generation, chimpanzees have to learn what to eat and how to use tools.

<synonym>

A human baby weighs about 3kg at birth, while chimpanzee babies are just under 2 kg. Brain volume becomes three times larger during development from newborn to adult in both humans and chimpanzees.

If it were not for the close and caring mother-infant bond,

Perhaps they even teach us something about our parent-child relationship.

<word chain>広い意味の collocation⁷:

This ability of association ... symbols ... meaning ... the basis of human language ... "here" and "now" ... present ... absent ... future ... tomorrow ... imagination powers ... the past ... the distant future ... imagination powers ... the future ... imagination ... hope ... this hope ... human nature

上記のように、英文の結束性を高める語彙の上での結びつきを随所に指摘することができ、単に扱う教材の「新出語」という視点ではなく、既習の語彙とも関連付けながら定着を図るという視点が、語彙指導の効率性を挙げる上で重要なものとなってくるであろう⁸。

3. 推測力を育む語彙指導について

一般に、英語の語彙力と読解力の間には、きわめて高い正の相関関係があることが指摘されている⁹。語彙指導を効果的に行うための指針としては、英語学習者に語の持つ多義性を認識させるために、語の用法に多面的に触れさせたり、未知語の語義を絞り込むための語義推測の方略を学ばせることは重要であることは言うに及ばないであろう。

一方で、Nation (2001;233) のような「言語文脈が提供する手がかりを利用して、未知語の推測を行うためには、少なくとも95%の語義が既知のものでなくてはならない。言語テクストの95%が既知の語であるということは、未知語の割合が20語に1語程度の割合で出現するということである。」という見解もある。

Kruse (1987:313) は、従来の EFL 学習者を対象として語彙指導の欠陥について、以下の様に述べている：

Because vocabulary development skills are seldom specifically taught, the student is not aware of the skills of inference from context or their benefits. Most

students have been trained to panic. Their first reaction on encountering a new word in a text is to stop and ask for a definition, even if the rest of the sentence defines it. The EFL student cannot begin to read with full comprehension until he has been taught to conquer the unknown word by using contextual aids.

つまり、EFL学習者は未知語に出くわした際に、文脈からその語義を推測する技能を十分に教えられていないために、すぐにパニックに陥り、英文全体の内容把握が覚束ない状況があるということである。

ここで、A. F. Kruse (1987: 312-6)に基づき、語彙指導上重要となる未知語の語義推測の具体的方略についてまとめてみる。Kruse (ibid:313-4) は、特にEFL学習者の語彙力増強に有効な文脈的手がかりとして以下のものを挙げている：

1. 接頭辞、接尾辞、語根の要素を活用すること。

単語、単語ファミリーなどの語内構成要素を認識する能力は、EFL学習者にとって最も重要な語彙技能である。

2. 絵、図、イラストなどの情報を活用すること。

英語の母語話者にとって、あまりにも明らかな手がかりであるが、EFL学習者は英語で表示されている図などの情報を読み取れず、結果的に十分に活用できない場合が多い。

3. 単語の「定義」の手がかりを活用すること：

a. () や脚注を用いた定義を認識すること。

b. (1) X is Y; X, that is Y 型による言い換えのパターンを認識すること。

(2) X, Y; X - Y, X, which is Y ; X, or Y 型による言い換えのパターンを認識すること。

4. 談話（1文を超えた言語テクスト）からの手がかりを活用すること。

a. 具体例を表す形（for example, i.e., e.g. など）を活用すること。

b. 談話の流れの中で、要約（summary）の内容を活用すること。

c. 自己の経験知識を適切に活用すること。

5. 文脈の中でその単語が果たす機能を考え、名詞、形容詞、動詞、主語などの文法範疇をつきとめること。

では、ここで高等学校検定教科書 *Unicorn English Communication II* (pp.169-178) を言語材料にして、上記の言語文脈が提供する手がかりを利用して、未知語の推測をどのように行う可能性があるかについて検討していく。以下に、分析例を示すことにする。

<接頭辞、接尾辞、語根の要素を活用することの例>

The human body is a product of evolution, and so is the human mind. The evolutionary history of the body can be traced from the fossil record.

Humans can associate events, objects, colors and many other concepts with corresponding symbols. This ability of association is truly remarkable.

In contrast, humans have remarkable powers of imagination. Starting from what we see and what we hear, we can easily imagine a world that is not actually in front of us.

They seem unconcerned about their future, even about tomorrow.

＜单語の「定義」の手がかりを活用することの例＞

The hominid family consists of four genera: humans, chimpanzees, gorillas, and orangutans.

The hominid family is distinguished by the lack of a tail: we humans have no tails, and neither do chimpanzees, gorillas and orangutans.

We can also envisage the distant future ... things that might happen long after we are dead.

On average, female chimpanzees give birth once every 5 years.

The gestation period is about 280 days in humans and 235 days in chimpanzees. A human baby weighs about 3 kg at birth, while chimpanzee babies are just under 2 kg.

Imagine that the numerals from 1 through 9 appear from place to place randomly on a computer screen for a very short time, such as 0.1s.

＜談話（1文を超えた言語テクスト）からの手がかりを活用することの例＞

The chimpanzees there use a pair of stones as hammer and anvil to crack open oil palm nuts. The hard strikes break the shell of the nut and an edible kernel comes out.

('anvil' 「鉄床」をどう推測するか)

The chimpanzee way of learning is called "Education by master-apprenticeship." Children learn from their mothers: they watch the mother closely and want very much to copy what she does. (master-apprenticeship を次の文で具体的に説明している)

上記のような視点で、未知語に出くわした場合には、前後の文脈を見渡すことで、当該語彙の言い換え部分や具体例を挙げている部分、詳述している部分から意味を推測するよう学習者に働きかけることが、語彙指導の必須のプロセスとなるであろう。

4. 結 び

本稿では、語彙の結束性に基づいた指導について、また、推測力を育む語彙指導について、高等学校英語検定教科書の英文分析を基に議論してきた。

本稿で分析した例からもわかるように、改善すべきは、英語語彙指導を与える教授者側の認識であろう。英語によるコミュニケーション能力を涵養するための発信用語彙の運用訓練と同時に、受容語彙の量を効率的に高める語彙指導の在り方、さらに、未知語を文脈から推測するための技能訓練も、併せて行っていくことが重要であろう。指導する側は、取り扱う教材に基づき、単なる新出語彙のリストだけではなく、本稿で議論されたような視点に基づいた独自の語彙リストを創造し、学習者の英語語彙の増強に努めていく必要があるであろう。

本稿で論じた語彙指導の観点以外の英語の語彙指導へのアプローチは他にも多くあるが、紙面が限られており、これらについてはまた稿を改めることにする。

APPENDIX

Unicorn, English Communication II, Lesson 10; pp.169-178
“What Is Uniquely Human? From the study of chimpanzees.”

1. I have been studying chimpanzees both in Japan and abroad. I have not only worked with a female chimpanzee named Ai here in Japan, but visited Africa each year for the past 25 years to study wild chimpanzees in their natural habitat.

I have also observed wild gorillas at the Virunga volcano in Rwanda, East Africa, and wild orangutans in northern Borneo in Malaysia, South-East Asia. Many people still adhere to a simple view that regards humans as separate from animals. However, this is completely wrong. Humans are members of the animal kingdom. Humans are mammals. Among mammals, humans belong to the order Primates, and to the family Hominidae. The hominid family consists of four genera: humans, chimpanzees, gorillas, and orangutans.

The hominid family is distinguished by the lack of a tail: we humans have no tails, and neither do chimpanzees, gorillas and orangutans. The Japanese language has only one words “saru,” which makes us think of Japanese monkeys. In English, however, there is a clear difference between “monkeys” (primates that have tails) and “apes” (primates with no tails). That is to say, humans and the three great apes belong to the same family, and are not “monkeys.”

2. The human body is a product of evolution, and so is the human mind. The evolutionary history of the body can be traced from the fossil record. However, the

mind and the brain never become fossils. It is to understand the evolutionary history of the human mind that I have compared the minds of humans with those of great apes, especially chimpanzees.

At the beginning of the 21st century, scientists succeeded in reading the whole human genome, and after that, the chimpanzee genome was also decoded. The result was amazing: 98.8% of the genome was exactly the same in humans and chimpanzees. There was only a 1.2% difference between the two. Whether we like it or not, this is how it goes.

Chimpanzees are so like humans. The life span of a chimpanzee is about 50 years. On average, female chimpanzees give birth once every 5 years. The gestation period is about 280 days in humans and 235 days in chimpanzees. A human baby weighs about 3 kg at birth, while chimpanzee babies are just under 2 kg. Brain volume becomes three times larger during development from newborn to adult in both humans and chimpanzees. Just like us, chimpanzees learn a lot of things as they grow up.

3. One example of the chimpanzee learning process can be found at Bossou in Guinea, West Africa; that is, where my field research has been done. The chimpanzees there use a pair of stones as hammer and anvil to crack open oil palm nuts. The hard strikes break the shell of the nut and an edible kernel comes out.

This is a cultural tradition unique to the Bossou community. From their previous generation, chimpanzees have to learn what to eat and how to use tools. It takes about 4 years for young chimpanzees to pick up the skill of using stone tools.

It is interesting to observe the learning process. The chimpanzee way of learning is called "Education by master-apprenticeship." Children learn from their mothers: they watch the mother closely and want very much to copy what she does. In return, mothers are very tolerant towards their children, and neither punish nor ignore them, although they do not directly teach. If it were not for the close and caring mother-infant bond, young chimpanzees would not learn the things they need to survive.

These phenomena show that chimpanzees learn things in a way similar to ours. Perhaps they even teach us something about our parent-child relationship.

4. Needless to say, however, there are a lot of marked differences between chimpanzees and humans, and the differences also tell us a thing or two about what makes us human. What distinguishes humans and chimpanzees? Here I would like to refer to what one of our recent studies discovered about chimpanzees: chimpanzees, especially young ones, have extraordinary powers of memory. They can memorize images at a glance.

Imagine that the numerals from 1 through 9 appear from place to place randomly on a computer screen for a very short time, such as 0.1s; they disappear as soon as they appear. You will notice the numerals flashing up on the screen, but you will not be able to remember where exactly each of the numerals appeared. But, surprisingly, chimpanzees can do it. This is the first evidence that chimpanzees can be better than humans in a mental task.

Human mental abilities, in contrast, seem to have developed in a quite different way; humans can imagine things that are not in front of them. Humans can associate events, objects, colors and many other concepts with corresponding symbols. In other words, humans have language. This is one of the most outstanding characteristics of humans.

5. This ability of association is truly remarkable, considering, for example, the word “red” has no physical similarity to the color red. In spite of that, when we see the word “red,” we are immediately reminded of the color red. Forming associations between symbols and their meaning is the basis of human language — but it is a very difficult task for chimpanzees.

In sum, chimpanzees live in a world of the “here” and “now.” They are very good at grasping what is present. However, they are not good at imaging things that are absent. They seem unconcerned about their future, even about tomorrow.

In contrast, humans have remarkable powers of imagination. Starting from what we see and what we hear, we can easily imagine a world that is not actually in front of us. We can think about the past — many hundreds, thousands, or even millions of years before our birth. We can also envisage the distant future — things that might happen long after we are dead. These imaginative powers make us what we are. They sometimes make us anxious about the future. However, the same imagination also gives us hope. It is perhaps this hope that is unique to human nature.

註

1. http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/ 「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」を参照。
2. 英語母語話者の受容語彙のサイズについては、50,000語～60,000語が想定されることが多い、また、発信用語彙サイズについては、派生語を含まない約2,000語が使用頻度の最も高い語彙として示されることが多い。
3. Henriksen (1999) では、「単語の数音節や数文字を知っている」段階、「音韻的に正しく発音できる・綴れる」段階、「発表語彙として単語を正しく発音できる・綴れる」段階へと発展的に変化していくという仮説が示されている。一般に、ある単語を受容

語彙として定着させてから発表語彙として使いこなせるようになるには、いくつかの語彙知識の側面を段階的に学んでいくものと考えられる。

4. ‘Collocation’ の定義は研究者によって多岐に渡っており、例えば、自由連結(free combinations), コロケーション(collocations), イディオム(idioms), あるいは、語彙的コロケーション(lexical collocation), 文法的コロケーション(grammatical collocation) 等の用語が使われる場合が多い。英語の学びにおいては、語と語の共起の可能性を予測し、共起する語と共に正しく使用するためには、コロケーションの知識が不可欠であると考えられている。
5. 例えば、animal(上位語: superordinate)に対して、dog, catは下位語(hyponym)の関係にあり、これらが同じテキスト中に共起することが、テキストの結束性をより強くすると考えられている。
6. Celce-Murcia, M. and E. Olshtain (2000:84)では、このような語彙的関係性を‘lexical chain’(語彙的連鎖)と呼んでいる。
7. 本稿ですでに指摘した語彙項目間の関係性の他に、伝統的には、同音異綴語(allowed — aloud, bury — berry等)、同じ綴りで発音が異なる語(動詞 liveと形容詞 live, prayer「祈る人・祈祷師」とprayer「祈り」等)、綴り字と発音が似ている語(=しかし、全く異なる単語: adoptとadapt, envelopeとenvelop)等があり、学習者のあらゆる語彙記憶に訴える必要がある。
8. 近年のcorpus linguisticsの研究成果の一部として、‘lexical bundles’ (=extended collocations that appear more repeatedly or groups of words that commonly appear together)という用語が用いられることが多くなっている。特に、フォーマルな学術的文書の表現で、It should be noted that …, As can be seen in Table 3, In this thesis, we are likely to …などをセット表現として活用することが、より自然な書き言葉の発信につながることが指摘されている。
9. この点については、高島(2000)やCoady et al. (1993)を参照されたい。

参考文献

- 相澤一美・石川慎一郎・村田俊 編著. 2005. 『JACET8000英単語』 東京：桐原書店.
 小寺茂明. 1996. 『英語教科書と文法教材研究』 東京：大修館書店.
 高島英幸 編著. 2000. 『英語のタスク活動と文法指導』 東京:大修館書店.
 投野由紀夫 編著. 1997. 『英語語彙習得論—ボキャブラリー学習を科学する』 東京:河源社.
 林 洋和. 2002. 「英語の語彙学習 / 指導方略としての“mixed approach”と語彙サイズおよび語の知識の深さ」『広島県立大学論集』第5巻, 第2号, pp.1-15.
 福地 肇. 1985. 『談話の構造』 東京：大修館書店.
 望月正道・相澤一美・投野由紀夫 編著. 『英語語彙の指導マニュアル』 東京:大修館書店.
 「高等学校学習指導要領解説・外国語編」. 平成20年9月. 文部科学省.
 「中学校学習指導要領解説・外国語編」. 平成20年9月. 文部科学省.
 Alexander, L. G. 1988. *Longman English Grammar*. London: Longman.

- Bachman, L. 1990. *Fundamental Considerations in Language Testing*. Oxford: Oxford University Press.
- Canale, M. 1983. 'From Communicative Competence to Communicative Language Pedagogy.' In J. Richards and R. Schmidt (eds.), *Language and Communication*, 2-27, London: Longman.
- Coady, J and Huckin, T.(eds.) 1997. *Second Language Vocabulary Acquisition*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Celce-Murcia, M. and E. Olshtain. 2000. *Discourse and Context in Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Declerck, R. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo:Kaitakusha.
- Douglas Biber, et al. 2002. *Longman Student Grammar of Spoken and Written English*. Edinburgh: Pearson Education Limited.
- Halliday, M. A. K. 1985. *An Introduction to Functional Grammar*. London: Edward Arnold.
- Halliday, M. A. K., and R. Hasan. 1976. *Cohesion in English*. London:Longman.
- Huddleston R. and G. K. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Henriksen, B. 1999. 'Three Dimensions of Vocabulary Development.' *Studies in Second Language Acquisition*. 21. 303-317.
- Murphy, R. 2004. *Grammar in Use*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nation, I.S.P. 2001. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nunan, D. 1999. *Second Language Teaching and Learning*. Boston: Heinle & Heinle.
- Schmitt, N.(ed.) *An Introduction to Applied Linguistics*. London: Hodder & Stoughton. *Unicorn, English Communication II*, 2015. BUN-EIDO. Kyoto.

